

もんぺ博覧会

MONPE Exhibition ニッポンのジーンズを目指して



第6回

久留米 縞ってなんだ？
もんぺってなんだ？

うなぎの寝床

1 concept 企画意図 | インド発祥と言われる縞の技法。日本独自の発展をとげている久留米縞。

1800年代前半に考案されたと言われる久留米縞。その歴史は200年ほどの歴史があります。その歴史というのは時代の流れや情勢、世の中のインフラの変換に大きく左右されています。その中でもまだ久留米縞が産業として残っているという点でも面白い事実です。「縞（かすり）」はインド発祥と言われ英語での呼称は「ikat」と呼ばれインドネシア語の「しぼる」に由来しており、糸を縛り、染め、織るという技術をベースに30数工程を経て布ができていきます。このもんぺ博覧会ももう6回目になります。そして、久留米縞という伝統工芸・産業と関わりはじめてはや6年間。技術のことも一般の方よりは詳しくなっています。そして約30件ほどある久留米縞の織物の特徴も徐々にわかってきました。

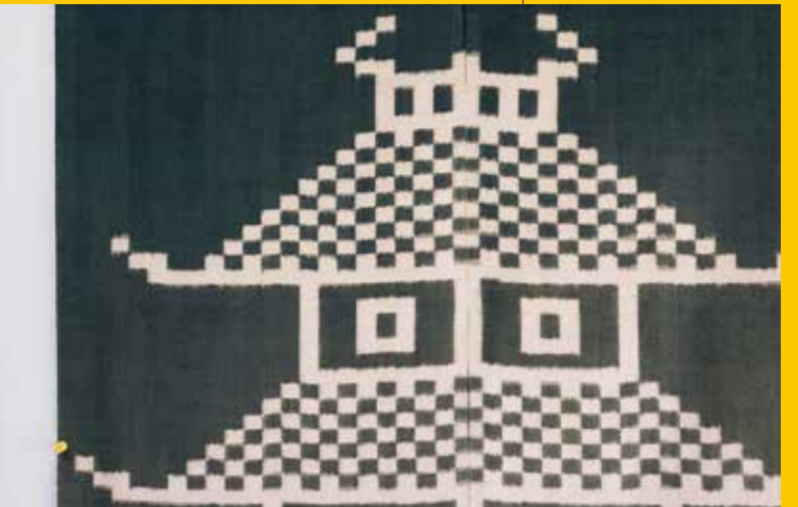
今回のもんぺ博覧会のテーマは「久留米縞ってなんだ？」。これは、みなさんへの投げかけというより、僕自身が久留米縞と携わってきた見えてきたテーマであり、織元さんたちにとってもテーマであると思います。藍染手織りの久留米縞、化学染料機械織の久留米縞、そして工房では今くくりの工程を必要としない「無地」や「縞」も製作されています。少しミニアックにはなりますが、時代の流れとともに、手仕事と機械化がうまく融合して産業としてまだ維持されているこの久留米縞のことを、自分達なりに、歴史や変遷、織元さんに話を伺ったりしながら解剖していきたいと思っています。去年インドに行ってきた。行って来たといっても2泊4日くらいの進行スケジュールでしたが、向こうのikat（かすり）をやっている業者さんと話

しました。こちらの久留米縞の生地見本を見せたら「なんでこの生地幅なの？」と聞かれました。それもそのはず久留米縞は着物の反物幅（約36~8cm）です。これを正確に説明するには日本の着物のことや、様々なことの説明が必要になってくることになりました。そして、もう一つこれを手織りの延長線上にある自動織機で織っているということ。元々は車を製造しているTOYOTAの前身である豊田織機が90年ほど前に開発したものです。くくりの機械も独自開発され世界中を見ても、かすりの技法を機械化したところはおそらくないと思います（まだ僕が調べた限りですが）。インドでその話をしたら「え！？その機械はインドに輸入できないの？」という話になりました。現実的にはもちろんメンテナンスも含めて難しいとは思いますが、現在は「かすり」の産地と

言えば日本において産業として成り立っているのはこの久留米縞だけです。久留米縞、備後縞、伊予縞、三木縞と言われていた産地も久留米縞以外はもう産業としては残っていません。そしてかすり自体は沖縄の琉球縞も存在します。ここは全て手織り手くくりで行なわれており、産業というより伝統工芸と言う方が適切だと思います。沖縄全体での織物の生産量が3500反くらいだと伺いました。今、海外とやりとりも少しはじめていて、海外からの目で見ると、この生産効率が悪い「かすり」の技法を機械化した日本人、そしてそれを先進国と言われるようになって継続し成り立っているという現状はやはりどこぞが狂気じみてるように見えるようです（いい意味で）、イギリスの方を案内した時に、

こんな風景はイギリスには残っていない。産業革命以前はおそらくこういう光景があったと思うが、まだこういう光景が先進国に残っているとは、と感動されていました。僕らはこの久留米縞という、まだ生きている地域資源から多くのことを学べるような気がします。そして、そのルーツをもう少し探っていく必要があると思っています。八女には伝統工芸がたくさんあります。石灯籠、仏壇、提灯、手漉し和紙など、しかし、ルーツを調べるとすべて中国や大陸から入ってきた文化です。しかし、それを日本独自の様式に変換したという面白さ。そこに魅力を感じています。今回はその一端という研究の一部を公開していただきたいと思います。もちろん、もんぺの展示販売も行いますので、どうぞお越しください。

福岡八女うなぎの寝床 白水高広・渡邊令



2 00 Place 開催場所

【八女本展】
5/23(火) - 29(日)
時間 10:00~18:00 (最終日は17:00まで)
八女伝統工芸館
〒834-0031
福岡県八女市本町 2-123-2
Tel. 0943-22-3131

【東京展】
6/9(木) - 30(木)
時間 10:00~21:00
渋谷ロフト
〒150-0042
東京都渋谷区宇田川町 21-1
Tel. 03-3462-3807

【福岡展】
7/16(土) - 24(日)
時間 11:00~19:00 (最終日は18:00まで)
松楠屋
〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名 2-1-16
Tel. 092-738-7155



【主催】うなぎの寝床 〒834-0031 福岡県八女市本町 267 Tel. 0943-22-3699 <http://unagino-nedoko.net>

2 もんぺという形態 戦時中は強制着用。戦後は着心地で広がりを見せる。

そもそも「もんぺ」に目をつけたのは、広川町産業会館（現藍彩館）に行った時に、久留米縞は婦人服や兵隊ばかりで僕らのような男性が着れるものがなくて、唯一着れそうだったのがこの「もんぺ」だったからです。もんぺは1943年に厚生省生活局が発表した「婦人標準服」の活動衣であり、戦時中の空襲演習の際には強制的に着用させられていたと聞きます。文化人からはそれはみっともないという批判的な意見もあったといいますが、そのかたちによる着心地の良さから各地で定着していったのだと、久留米縞は当時産地として確立していたので、戦争を終えもんぺは農作業着として定着しています。このような流れからこの久留米縞の産地ではもんぺ用の生地が織られています。昔ながらのもんぺはあくまでも農作業用なので、大量に安くとれただけつらくない

ところがテーマだったと思いますが、現代のもんぺはその流れとはまた違い、現代の久留米縞の工程で丁寧につくられています。かたちも昔ほどお尻回りが大きいという訳ではなく、現代の日常着にあわせたかたちで形が変化してきていると思います。僕は産業会館で丸亀織物さんと野村織物さんのもんぺを見て「あー、これは履けそうだな。」と3本ほど買って履いてみました。すると非常に履きやすく夏はもう、このもんぺなしには過ごせないというゆる「もんぺ地獄」にはまったのです。そこから、この久留米縞の生地というのは結構可能性があるんじゃないかと思いつき、自分達が感じた体感より多くの老若男女問わずに伝えることができなかと「もんぺ博覧会」の第1回を開催しました。本

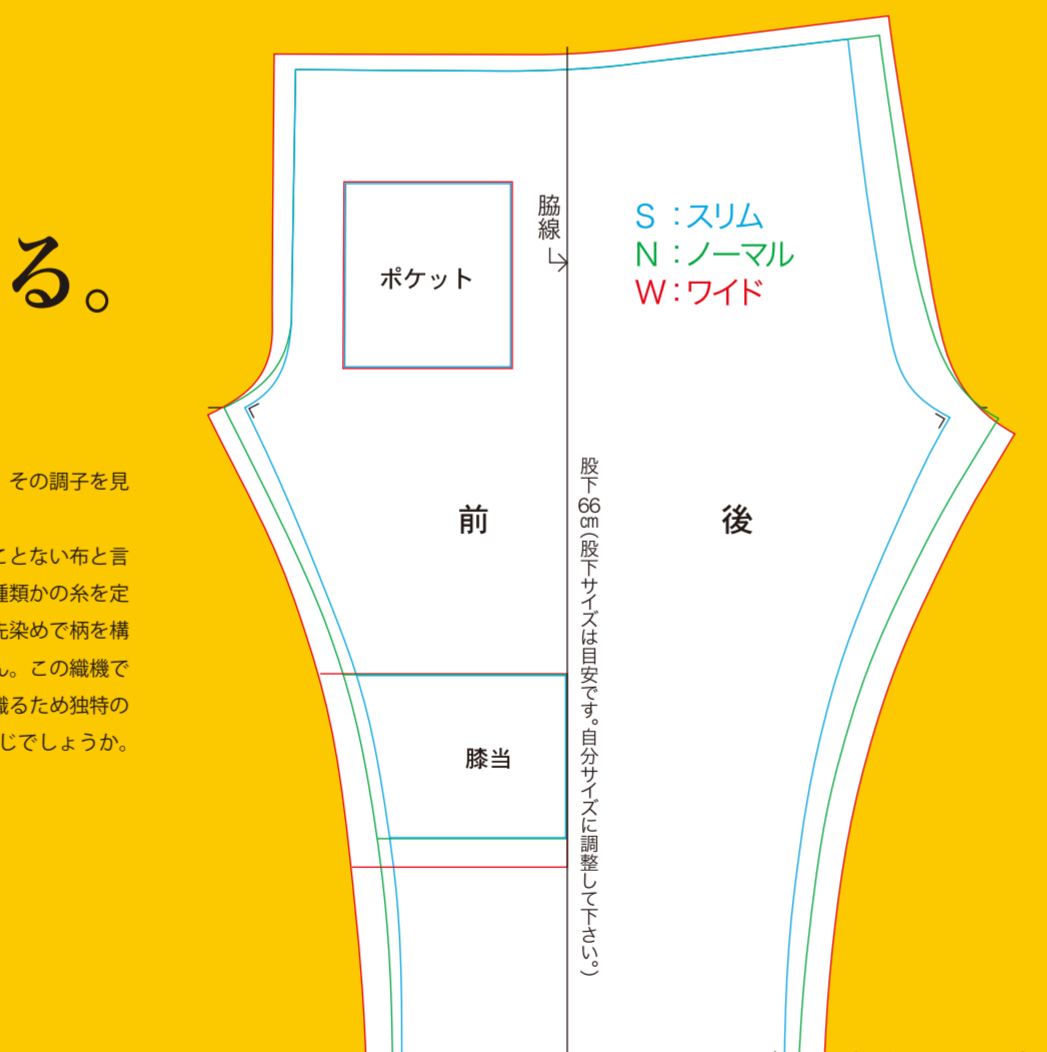
当は毎年恒例にするつもりもなかったのですが、ありがたいことに開催してくれという声が多く、毎年5月末からの定期行事となりました。僕らも毎年何かしらテーマを持ちながら、取り組みたいと考えていて、今回のテーマは「久留米縞ってなんだ？」に決定しました。



3 Kurume Kasuri Design Skill TOYOTAが開発した自動織機を今も使用中。

約60年ほど前の織機を今も使っている。織元はメカニックでもあるのだ！！

久留米縞の織元さんの代表の方々には非常に個性的な方々ばかりで面白いです。代表は社長であり、職人です。その中の仕事の一つに「機械とつき合う」という任務があります。久留米縞の織機は約60年ほど前に製造された織機です。現在は車の生産をしているTOYOTAの前身である豊田織機の自動織機を使っています。正確に言うと豊田織機のものばかりではなく、それと同じ時代につくられた他のメーカーのものもあります。銃柄で言うと岩間織機・須山織機・名古屋織機・日輪織機・川上織機・鈴木織機などです。それらの織機はもう生産はされておらず部品などは廃棄している業者さんから同じ型の織機を譲り受けて、そこから部品を取ったり、錆物屋さんに頼んだり、メカニックな仕事もやっています。鉄と木で基本的にできているので、雨の日や晴の日でちょ



4 Monpe Design Pattern 現代に結果あわせたもんぺの形と型紙

もんぺ博覧会を行なった1年目、八女周辺の方々から「もんぺはもう買わないでいいから、型紙を欲しい」と多くの声がありました。何故かというところの地域の人々には多くに久留米縞の反物や着物を保有しており、着物は着なくなったので、他のものに転用できないかと考えていたわけです。着物は布を繋いだだけの形なので、縫いを解いたら布に戻ります。それが特徴でもあり、戦時中は布の統制が回っていたので、実際に着物を解いてその生地でもんぺ

結果細身になってしまった。スリムなもんぺ。意思はそのままに、現代生活で履きやすく。

が作られていたようです。うなぎの寝床では、要望に答え白水の妻と義母が反物幅で作りやすいようにと型紙を引いてくれました。具体的には着尺の幅（約36cm~38cm）の生地で作るように設計しました。昔ながらのもんぺはお尻回りが大きいので、股の部分が布が足りなくなり、三角に布をつまみます。それがなるべくないように設計しました。そして、膝下が細めになっています。今までは農作業着としてしか使われていなかったもんぺが、形も少し変化し

たことで日常着としても着られるようになりました。形以外の機能はそのままです。裾にゴムが入っており絞れるようになっているので、ポケットは前ポケット、膝当てが入り、股回りはゴムと紐の併用です（織元によって若干仕様は異なりますが）。どうぞ自分で布を持って行く方はつけてみてはいかがでしょうか？



5 Kurume Kasuri Design Skill 知らなくてもいいけど知ったら楽しい柄の話

久留米縞の表現として様々な表現があります。僕なりの解釈を加えて簡単に説明したいと思っています。これは技術としての簡単な説明になります。使い手（消費者）がどこまで知っておかないといけないのかわかりませんが、知っておくと「あー、これは経縞だね。いいね。」なんてちょっと評論家になった気分を味わえます。これは「技術的に素晴らしいね。」なんて、つくる工程などについてしっかり知ることによって価値のこともわかってきたりするので、参考にしてみてください。



1. 無地

無地は経糸（たていと）緯糸（よこいと）糸を染色して織っただけのシンプルな織物です。縞の定義はやはり「くくり」という工程が入り柄を構築するというのが正派だと思います。しかし、この無地は価値があるものだとは思っていて、この昔ながらの織機でゆくり織った布は風合いがよく「柄物はちょっと」という方も入り口としては入りやすい。柄ではありませんが、久留米縞の風合いを感じる布になります。

2. 縞

昔から縞縞というものが残っているくらいで、縞は無数の創造力と可能性を秘めていると思います。志村ふくみさんの小製帖の中にある縞たちなんて非常に美しい布ばかりです。縞は色も縞の本数も無数に組み合わせがあるので、その織元独自の縞のあり方なども見えてくるかもしれません。久留米縞はあくまでも柄を構築することが中心の織物ですので、縞の布がすごく多いわけはありません。

3. チェック

これも全体の中の縞としては多くはありませんが、要所要所で使われたりもしています。写真のチェックはシンプルなチェックですが、ここに久留米縞のくくり糸をスツと入れたりして工夫したチェックができたらしもしています。若い人なども入りやすい柄になるんじゃないかなと思います。もんぺに関してはチェックで構成されたものはほぼないと思いますが、技法の一つとしてあげておきます。

4. 経縞（たてかすり）

経縞は幾何学模様を表現する場合があります。矢張りこの経縞に見られる典型的な柄であり、まず四角に構成したものをずらしていき矢の模様を構築していきます。シンプルだからこそ全世界にもみられる柄に昇華されます。

5. 緯縞（よこかすり）

緯縞は、縞縞を構築する時に使われる技法です。複雑な柄などでも工夫によっては表現できます。花や風景など流れがある柄を構築する場合には非常に有効です。写真は雲か松が創造力を喚起される有機的な柄です。

6. 経緯縞（たてよこかすり）

これぞ久留米縞という技法です。経糸も緯糸もしっかりくくり糸を使い、柄をパッチと合わせていく。山笠の法被などもほとんどが経緯縞です。この写真の柄は全ての技法が入った経緯縞です。津屋織物さんの構築した布。技術としては素晴らしい布です。

